

～最新技術の活用による鳥獣被害対策及び生息状況調査実証事業～

〔令和4年度実施地区〕 山形市 山寺地区

■ 実施体制

- 実施主体：山寺地区振興会
- アドバイザー：吉田 淳久 氏(株式会社 地域環境計画)

■ 地区のプロフィール

- 地区内の戸数：415戸 うち農家数96戸
- 主な被害作物：サクランボ、リンゴ、イチゴ、ナシ、水稻
(令和3年度被害金額 約15,177千円)
- 主な加害鳥獣：ニホンザル、イノシシ、ツキノワグマ、カラス、カモシカ



1. 取組のきっかけ

- 山寺地区は、観光と果樹を中心とした集落であるが、ニホンザル、イノシシ、ツキノワグマによる農作物被害、人的環境被害が増加している。個人での鳥獣防護柵設置や実施隊による捕獲に努めているが、被害の減少には至っていない。
- 有害鳥獣対策の更なる強化のため、ドローン活用による集落環境点検、生息状況調査、ICTわな(捕獲通報システム)実証事業を当地区で実施することとなった。

2. 取組の内容

●関係者による事前打合せ

地域振興会役員、実施隊(山寺分会)、アドバイザー、県・市職員が集結し、山寺地区内での鳥獣被害の現状把握や現在まで実施した被害防止対策を確認。今後のスケジュールについて打合せを行った。

●ICT使用でのわな設置・捕獲の実証

山寺地区は観光地でもあり、名所旧跡への道路・登山道・森林等での散策や観光果樹園を利用する観光客も多く、実施隊による捕獲活動もわな設置場所(集落外捕獲)の検討が必要なため、遠距離へ設置のイノシシわなにICTを利用したことによる効果的な捕獲について実施隊(山寺分会)への研修を行った。生息状況調査結果を踏まえ、ICTわな3台を設置し捕獲活動を行った。(イノシシ1頭捕獲)

●ドローンによる集落環境点検及び生息状況調査、被害対策研修会

山寺地区内における野生動物の生息状況及び被害対策状況を把握するため、ドローンによる調査(昼・夜)を行った。調査結果を地図化し、研修会で情報整理や意見交換の際に活用した。研修会では、今後地区で進める被害対策について、意見交換を行った。



集落点検と防護柵設置の現地研修会



ドローンによる野生動物の生息状況調査

3. 課題と今後の展望

- ドローン調査を踏まえ『守るべき場所(農地)は何処か?』を地域住民で共有し、広域的なワイヤーメッシュ柵を設置する。また、併せてバッファゾーンの整備も行う。
- 定期的に集落点検を行い不要果樹の伐採や藪の管理の促進を図る
- ICTわなの使用で捕獲者の労務軽減と安全性の向上及び捕獲活動の強化を図る

